

アフターコロナ編策定にあたり必要な視点

- コロナ禍によって顕在化した課題**
- ・加速度的に進行したデジタル化への対応
 - ・社会の急激な変化に対応する人材の育成・確保
 - ・働き方改革への対応
 - ・地域コミュニティのあり方

第4次基本計画のテーマ「ひとの力」を加速

施策の展開

- ・あらゆる分野でのデジタル化・DXの推進
- ・人材育成・人材確保
- ・多様な働き方のできる環境整備の推進
- ・地域コミュニティ活動の支援

- 地域社会・地域経済の新たな活力の創出
- ・新たな価値が生まれ、ゆとりと豊かさを感じられるまちの実現
 - ・将来の担い手の確保、挑戦する人の育成
 - ・安心や絆を感じられる地域コミュニティの創出

ヒト・モノ・コトの循環

持続可能な未来都市高岡

※ゴシック体：第4次基本計画に記載のない施策（別の分野に記載の施策、一部のみ記載の施策を含む）

分野	R5.3.28 総括部会資料		R5.3.28 総括部会での主な意見	アフターコロナ（5類移行後）における現在の状況・課題・施策の展開（案）	
	コロナ禍での状況	5類移行後に想定される状況（3月末時点） （○：プラス要素、●：マイナス要素）		現状と課題	施策の展開
全体			<ul style="list-style-type: none"> ・全体として共通することは、デジタル化と人材育成である。 ・コロナ禍でデジタル化を加速させる動きがあることは良いこと。 ・各分野において、デジタル技術の活用は必要である。 ・リスクリングがいろいろな分野で大事になる。 ・90%以上は、コロナ禍前の世界に戻りつつある。施策もコロナという意識をなくしてもよいのではないか。 		
子育て・教育	<ul style="list-style-type: none"> ○子育て支援センターなどでの交流機会が減少し、子育て世代等の孤立化が懸念される状況となった。 ○デジタル技術の活用により、非対面での相談機会が増えた。 	<ul style="list-style-type: none"> ○子育て世代向けのイベントが再開される。 ○対面相談の機会が増える。 ○デジタル技術を活用した相談対応が定着する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍で親が家にいる時間が増えたことはプラスでもあるが、マイナスに働く家庭もある。虐待の対応件数の多くは、面前DVによる心理的虐待であり、その比率が増えたことは、コロナ禍におけるマイナス要素である。しかし、令和5年4月から、こども基本法が本格的にスタートするため、子どもを大切にしていこうという機運が高まり、再スタートにつながるのではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・デジタル技術の活用による多様な相談体制が求められる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・対面と非対面によるきめ細かな子育て支援の体制整備 ・子どもや子育て世帯等を社会全体で見守る環境づくりの推進
	<ul style="list-style-type: none"> ○若い世代を中心に、テレワークなど新たな働き方を取り入れる動きが増えた。 	<ul style="list-style-type: none"> ○テレワークが定着する。 ●テレワークの減少、会食や出張が再開などにより、働き手が家庭で過ごす時間が減少する。 		<ul style="list-style-type: none"> ・若い世代を中心に、テレワークなど多様な働き方が一定程度定着した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・多様で柔軟な働き方が選択されやすい環境整備（子育てや介護など限られた時間の中で働きたい方を含む） ・性別にかかわらず家事・育児参画の推進
	<ul style="list-style-type: none"> ○国のGIGAスクール構想により、1人1台学習専用端末等が整備され、授業や家庭での活用が進むとともに、教員の指導力が向上した。 	<ul style="list-style-type: none"> ○授業や家庭での学習端末活用が定着する。 ●指導方法の習熟、情報セキュリティの知識、リテラシーの向上など、教員に対しては引き続き高い対応力が求められる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍でのプラス部分は間違いなくデジタル化の推進である。インターネットやスマホが自由に使える時代になってきたが、学校教育において、教える側がどのようにデジタル化に追いつき、子どもたちを引っ張っていくのかという課題が見えてきた。 ・インターネットの負の側面に気を付けなくてはならない。SNSの怖さなどのように付き合い、どのように利用し、活用しながら成長につなげていくのが課題である。ネットいじめや闇バイトなどの課題も広がっているが、学校と家庭それぞれの立場や良さを活かして対応していく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・国のGIGAスクール構想により、1人1台学習専用端末等が整備され、授業や家庭での活用が定着した。 ・ICTを活用した授業を推進するための指導力（情報セキュリティの知識、リテラシーの向上等）を向上することが課題である。 ・インターネットやSNSの活用について、学校と家庭それぞれの立場で対応していく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ICTを活用した学習機会の創出 ・ICTを活用した指導力（情報セキュリティの知識、リテラシー）の向上支援 ・IT人材の育成とIT企業との連携
	<ul style="list-style-type: none"> ○生活環境の急激な変化による心への不安や運動不足による体力の低下、新型コロナウイルス感染症に関連した人権侵害など、子どもの成長や学校生活をめぐる新たな課題が生じた。 		<ul style="list-style-type: none"> ・震災や戦争に匹敵するほど、コロナ禍は人間形成のうえで大きな影響があった。 ・学校に行って友達に会いたいという気持ちや、学校が楽しいという感覚が生まれてきたように思う。対人関係、人間関係の良さを子どもたちは求めている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生活環境の急激な変化による心への不安や運動不足による体力の低下、新型コロナウイルス感染症に関連した多様な価値観への配慮の必要性など、子どもの成長や学校生活をめぐる新たな課題が生じている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全教職員による組織的、協働的な指導・援助の推進 ・スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、心の教室相談員の配置 ・人権問題に関する学習及び多様性を尊重する学習機会の充実 ・教職員・保育士の業務負担軽減を図り、業務により専念できる環境を構築（デジタル技術の活用を含む）
<ul style="list-style-type: none"> ○学校や保育施設における感染症対策に伴う業務の増加により、教職員や保育士の負担が増えた。 	<ul style="list-style-type: none"> ○感染症対策に伴う業務は減少する。 ●継続的に感染拡大への予防や、予防に対する考え方の違いへの配慮が必要になる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・感染症対策で教員や保育士の負担が増えたことは事実であり、負担増に耐えかねてやめた教員や保育士もいる。ストレスが溜まって不適切保育につながっていることもある。子どもたちへのストレスケアに加え、教員や保育士のストレスに対処する必要がある。 			
<ul style="list-style-type: none"> ○公民館や各地域では、各種講座や教室を開催し、地域に根差した学習と交流の場づくり等に取り組んでいたが、外出自粛等に伴い、地域での活動機会が減少した。 ○デジタル技術を活用した学習機会が増えた。 	<ul style="list-style-type: none"> ○地域住民による対面での交流や学習等の機会が再び増加する。 ●外出控えが定着し、地域での学習や交流の場への参加者が元の水準まで回復しない。 ○公民館活動へのデジタル技術の活用が定着する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍を受け、公民館にデジタル技術を新たに取り入れた。子どもたちが使ったり、離れた地域の方とオンラインで交流できるようになった。 ・AIやチャットGPTのような新しいデジタル技術も生まれている。 ・公民館でいろいろな人とのつながりが出てくることを期待したい。公民館に行くとか誰かが何かを教えてくれるようになれば良い。 ・公民館で自由にオンラインができるよう、ICT環境が普及していけば更なる広がりが出てくる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・公民館や各地域において、活動の縮小が定着し、元の水準まで回復しない。 ・デジタル技術を活用した学習機会の充実や情報提供、学ぶ環境の整備が定着した。 ・デジタル分野を中心に、様々な分野での人材のリスクリングが必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・デジタル技術の活用、リスクリングによる生涯学習活動の多様化の推進 ・地域社会における拠点としての活用の促進 	
<ul style="list-style-type: none"> ○外出自粛や行動制限等により、スポーツをする機会が減少した。 	<ul style="list-style-type: none"> ○スポーツに親しめる機会が再び増える。 				